

復興工事への理解 現地で深める

国、県、市6機関の合同見学会

東日本大震災後に市内各地で行われている国、県、市の公共工事に対する市民の皆さんの理解を深めてほしいと国、県、市の6機関で構成する「石巻市市街地復興工事調整会議」が主催する「第9回合同現場見学会」が11月9日に開かれました。市内を中心に15人が参加し、市民の安全確保や利便性向上のために行われている工事の進み具合など確認しました。

一行は、平成26年5月に津波避難ビルとして再建された石巻港湾合同庁舎に集合。港湾労働者などを守るために5階に設けた防災倉庫などの施設概要や津波で被災した上釜南部・下釜南部両地区の復興土地区画整理事業について、市の担当者から説明を受けました。

その後、バスに乗って雲雀野地区防波堤と県道門脇流留線・市道石巻工業港運河線の交差部分の工事現場を訪問。県石巻港湾事務所、県東部土木事務所や施工する企業の担当者らが工事の内容などについて詳しく説明しました。

参加した人たちは、普段は入ることのできない工事現場の現場にも特別に足を運んで、間近に公共事業の重要性を体感し、早期完成を願っていました。

道路工事の内容について担当者から詳しく聞く参加者



被災市街地復興土地区画整理事業について説明を受ける



雲雀野地区防潮堤工事の整備手法の解説に耳を傾ける



防潮堤に上がり、工事の進み具合などを確認



見学会の最後はスタッフとともに記念撮影



図 基盤整備課(内線5518)

国営中津山農業水利事業の完了

国営中津山農業水利事業では、鶴家排水機場(総排水量：毎秒27立方メートル)および後谷地排水機場(総排水量：毎秒20立方メートル)の改修と併せて旧古川排水路を改修し、全ての排水能力をこれまでの約2倍に向上させ、農地の湛水被害を軽減するとともに、市民生活の安心・安全を守る施設を整備しました。

この事業の実施により、北上川と旧北上川の囲まれた地域では、稲作を中心に水田の畑利用による大麦、小麦、大豆などを組み合わせた複合経営が行われており、県内有数の農業地帯となっています。

地区の「安心・安全」のため、県内屈指の農業地帯として持続的な発展が期待されます。



鶴家排水機場



旧古川排水路



後谷地排水機場

調べてみよう!

はいすいきじょう はいすいりょう
排水機場の排水量

つるが はいすいきじょう
鶴家排水機場の大型ポンプを使うと、学校のプール1ぱい分の水は
はいすい
何秒で排水してくれるのでしょうか? 計算してみよう!

〈答えの出し方〉
小学校によくある25mプール(25m×12m)に1.2mを張ったとすると、
25m×12m×1.2m=360m³ (①)
つるが はいすいきじょうおがた はいすいりょう
鶴家排水機場大型ポンプの1秒あたりの排水量は約27.0m³ (②)なので、
計算式は、①÷②=□□秒となります。

(答え) 13秒

